

ベストクラス選定理由書

作成者：檜皮賢治、森達也、長野沙紀、西岡伸紀、岸田恵津

科目名称	児童文学から教材研究へ		
	(担当教員名： 遠藤 純)		
課 程	学部・ 大学院 (修士 ・専門職)	開講時期	後期
授業形態	講義	授業規模	30人以下
インタビュー対象教員名	遠藤 純 (実施日時：8月3日(月) 13:30~14:10； 実施場所：Zoom ミーティング)		
インタビュー対象受講者名	受講者修了のため、該当者なし (実施日時： 月 日 () ~ ; 実施場所： ())		
選定理由	<p>はじめに、本科目は、旧カリキュラムで実施されていたものであり、受講者へのインタビューは行っていない。そのため、教員のみインタビューと授業評価アンケートの内容から推薦理由を述べる。</p> <p>本授業は、昼夜両コースの学生が在籍していたため、土日を含めた集中講義の形式で行われた。授業者は、集中講義の性質上、学生の負担も考慮しながら 90 分の講義と演習を交互に実施する形式で授業を展開した。</p> <p>講義の内容は、児童文学を中心とした文学論とその教材研究についてであった。児童文学は、授業者の遠藤先生の専門分野である。授業では、特に宮沢賢治や巖谷小波の作品について、その内容を時代や社会的背景から深く考察した。また、演習においても、それらの作品についてグループワークを行い、議論をした。児童作品は、簡単に読むことができる一方で、明確に記述されていない(理解しにくい)部分も多い。その不明瞭な部分について、学生がそれぞれの専門性を生かしながら話し合うことが出来ていたため、深く議論が展開出来ていた。</p> <p>また、学生が課題のプレゼンテーションをするなど、アウトプットの機会も多く設けられている。課題内容は、「一つの“もの”を深く観察し、その観察から浮かび上がってきた背景を教材に取り入れる」といった学生の専門性や多様性を大切にしている。</p> <p>授業者は、「当たり前が当たり前でない、分からなさをそのまま楽しみ、分からないことに形を与える。そして、それ自身が正解とは限らない。」と、学生の見方や捉え方を大切に、考えることに重点を置いている。学生の授業アンケートには「文学に対する好奇心が湧いた。」や「2年間を通して受講し、たくさんの学びと発見があり、文学の楽しさを味わえた。」など、学生自身の学びや満足感も大きかったことがうかがえる。</p> <p>以上の理由より、本クラスをベストクラス候補に推薦する。</p>		